



中国日本商会

今どきコラムー114

中国雑談

カーボン政策が直面する四大経済リスク

国家発展改革委員会価格監測センター高級エコノミストの劉満平氏は、6月14日に微信(WeChat)公式アカウント「南方エネルギー観察(アカウント名: energyobserver)」にエッセーを寄稿して、カーボン政策の推進で必ず直面する四大経済リスクを論じた。

1. 経済成長減速リスク

世界的にみれば、ほとんどの国が炭素排出ピークアウトの後、経済成長速度が低下している。例えば、ドイツは1990年にピークアウトを迎えているが、その年のGDP成長率は前年同期比5.3%で、20年来で最高レベルであった。1991年に減速が始まり、その後10年間の平均成長率は約1.9%で、炭素排出ピークアウト前の10年間の平均である2.3%よりも低くなった。

現在、中国はいまだ工業化段階にあり、工業付加価値額がGDPに占める割合は約39%で、大部分の国の炭素排出ピークアウト時の割合(30%以下)よりも10ポイントほど高く、経済成長と炭素排出ピークアウトの「デカップリング(関係離脱)」は実現されておらず、両者はいまだ正の相関関係にある。経済構造や技術条件に顕著な改善がみられず、産業構造の調整や業界の省エネ、非化石エネルギー発展を主な排出削減手段としている限りにおいて、炭素排出削減に力を入れると、産業の競争力を弱め、さらには経済成長の余地を縮小させてしまう。



2. エネルギー安全保障リスク

炭素排出ピークアウトとカーボンニュートラルの推進、新エネルギーを主体とする新型電力システムづくりは大勢の赴くところであり、石炭などの化石エネルギーの割合を減らし、エネルギー構造をローカーボン発展へと向かわせることは、発展の必然である。しかし、今後しばらく中国経済は成長を続け、エネルギー・電力消費量はいまだ比較的速い増加を続ける段階にある。近年、中国では風力発電や太陽光発電などの新エネルギーが急速に発展しているとはいえ、石炭などの従来の化石エネルギーに比べると、新エネルギーは商業モデルに乏しく、川上・川下の生産能力のミスマッチ、核心的な基幹原料が輸入に依存しているなどの問題が依然として目立っており、技術的にもいまだ顕著な弱点がみられ、短期的な解決は難しく、エネルギー・電力業界の大規模で増え続ける供給需要を満足させることは難しいため、やはり従来の化石エネルギーにエネルギー安全の最低保障の役割を担ってもらう必要がある。

3. 金融安定リスク

炭素排出ピークアウトとカーボンニュートラルの推進によりもたらされる金融リスクは、主に以下のふたつの方面に現れる。

一つには、石炭発電などの高炭素排出企業の資産が「座礁」するリスクだ。カーボンニュートラルは大部分の業界に 30~40 年以内に大幅に炭素排出量を削減、ひいては排出ゼロを実現するよう求めるもので、この過程が石炭などの高炭素排出産業及び企業に一定のリスクをもたらす。

もう一つは、高炭素排出企業融資が隠し持つ金融リスクだ。中国の石炭発電業界の近年の赤字率は 50%にもなり、負債比率が比較的高く、多くの石炭発電企業は資本市場での融資を必要としている。新エネルギー技術の発展にともなって、再生可能エネルギー発電の総合



コストは下がり続けている。

4. 価格上昇リスク

現在ある技術という条件のもとで、クリーンでローカーボンなエネルギー利用と二酸化炭素排出削減技術の応用、そして必然的に引き起こされるすべてのエネルギーの使用コストの上昇は、企業の生産コストを増加させ、商品価格の上昇を促し、コストにより突き動かされるインフレを引き起こす可能性がある。

日本企業（中国）研究院 執行院長

chenyan5931@163.com